

## YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏名	S.M	学部・学科	国際商学部
学年	2年	派遣国	台湾
派遣大学	国立政治大学		
プログラム名	Cコース：初習外国語語学研修		
期間	2023年6月25日～2023年7月22日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

中国語のクラスは、初日にクラス分けテスト(問題はすべて中国語で出題)が行われました。私のように大学で1年間第2外国語として中国語を学んだ人や、両親が中国人でアメリカに住んでいる人、大学の4年間中国語を専攻していた人など様々なレベルの留学生が集まっていたため、私は2つのうち下の5人クラスに振り分けられました。クラスの構成はアメリカ人が3人、イギリスの大学に通っているドイツ人が1人、そして私で、みな中国語初級者だったため、中国語の先生は英語を交えて授業を進めてくれました。

横浜市大での中国語の授業は日本語で中国語を学ぶクラスだったため、英語を日常的に使っていない私にとって英語で中国語を学ぶことは新鮮に感じられましたが、中国語と英語は語順や単語の意味がとても似ているため、英語を用いることによって直感的に中国語を理解することができ、さらなる中国語の実力アップにつながりました。

授業内容は基本的な挨拶や自己紹介から始まり、最終的には修飾節を用いた複雑な文構造まで学びました。それ以外に、習ってはいないものの先生が口癖でよく話しているフレーズや飲食店などでよく話される会話文に関して、授業内で学んだ疑問文の表現を使い、気軽に先生に質問することができました。また街に出てすぐに使えるフレーズもあわせて教わったため、外出したとき、授業で学んだフレーズや会話文を実際に使うことができ、また相手の話している中国語も聞き取ることができました。宿題に関しては、毎日授業の内容を復習するものが出たことで、中国語を自分のものにすることができました。

英語のクラスは事前に選択した授業を受講しました。中国語のクラスにはいない、中国人や香港人も交流を持っていたため、中国語のクラスに加えて英語のクラスも取っておいてよかったと思いました。そこでは中国の文化や東アジアの政治経済について学び、それについての各国の留学生の意見を聞くことで、中国や日本をはじめとした東アジアの国への理解が深まったように思います。課題に関しては毎週末の個人レポート、あるいはグループワークでPPTでのプレゼンテーションが出され、特にグループワークで一つの議題に対して複数の国の留学生の意見をまとめる作業は、大変でしたが実りあるものになりました。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500字程度)

中国語のクラスで学んだ「～できますか」を意味する「可以～嗎?」という表現を、「クレジットカード使えますか(可以刷卡嗎?)」「試着できますか(可以試穿嗎?)」「悠遊カードにチャージできますか(可以加值嗎?)」などに応用して、飲食店や洋服店で使うことができました。とても基本的な表現ではありますが、授業内で教わり発音の練習をするだけでなく、実際に街で台湾の人に話しかけそれが理解されることで、自分の発音や文法に自信を持つことができました。

前述したとおり中国語と英語は語順等が似ているので、日本語で中国語を学ぶよりも効率的に理解が進んだと思います。たとえば I think…に当たる中国語は我覺得…ですが、日本語で「私は…と思う」と無理やり訳すより、直感的に理解し覚えることができました。また英語ネイティブのクラスメイトによる中国語の発音を聞くと英語なまりになっており、同時に自分の発音も日本語なまりであることに気が付いたので、中国語だけでなく英語と日本語の発音や母音の違いを肌で感じ、3言語への造詣が深まったように感じます。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように(気持ちなどが)変化したか。(400字程度)

日本では中国語を使う人と交流する機会はほとんどなく、1人での海外も初めての経験だったのでとても不安を感じていました。しかし授業で基礎から中国語を学び、その日のうちに街に出てすぐに習ったフレーズを使うことを繰り返したため、授業を受ける前に比べて中国語のスキルが格段に上がり、コミュニケーション能力もついたと実感しています。また中国語に限らず言えることだと思いますが、外国語を用いて外国の人とつたないながらもコミュニケーションを取ることを楽しさを知ることができました。

同じクラスを受けている留学生とは英語でも会話していたため、英語のネイティブがよく使う表現を聞いて話して学び、時には質問したりして、英語のスキルも得ることができました。

また日本の文化が好きで日本語の勉強をしているクラスメイトと、お互いに日本語と中国語を教えあったことで、たとえば口語では日本語の助詞はどの程度省略してよいかなど、日本語への理解も深めることができました。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300字程度)

この経験を通して、一人で海外に行き、現地の言葉を使って現地の人とコミュニケーションを取ることに不安がなくなりました。また、同じ言語の習得を目指す様々な国の人と出会ったことが大きな財産となりました。外国語の学習へのモチベーションも大いに高まったため、今後も英語と中国語の習得にむけ努力していきたいと思います。

